



かまくら認知症ネットワーク

題字 古川茂明

- 会報12号
- 2013年9月1日発行
- 編集発行人
一般社団法人かまくら認知症ネットワーク
〒247-0056鎌倉市大船1-22-2-402号
- TEL0467-47-6685
- 郵便振替
00240-8-140587
- 編集責任者 稲田秀樹

認知症ケアでつながる人々 稲田秀樹

かまくら認知症ネットワーク代表理事
ケアサロンさくら 施設長

最初に白鳥容子さん(当時61歳)のお宅へ伺ったのは平成21年9月だった。白鳥容さんは57歳頃から認知症の症状が現れ始めた。翌年には家事ができなくなりパートの仕事も辞めることになった。そのうちに夜間に家の中を歩き回ったり、意味の分からないことを言うようになった。当初、夫は認知症ではなく、統合失調症か夢遊病の一種のようなものを疑ったという。

夫への暴力、暴言が日常化していた。若年性認知症で症状が多発していると聞いていたから、はじめて会った時の容子さんの笑顔を見て私は少し安心した。認知症の人でなくても第一印象が大切なものだ。こちら笑顔で応じると「どうぞ、どうぞ」とにこやかに手招きをした。初めて会った容子さんはとても明るくおしゃべりだった。夫から寅さんの映画が好きなのだと聞かされたが、夫が口を挟むとちょっと不機嫌な顔になった。

たっぷり容子さんの話を聞いた後で、別の場所で再び夫と落ち合った。デイサービスの利用の相談だが、私はほぼ迷いなく「大丈夫でしょう」と話した。だが夫は高齢の他の利用者に怪我をさせるのではないかと心配が頭から離れなかった。その後主治医と相談され、抗精神病薬のグラマリール錠が1錠だけ追加処方となった。利用初日、自宅マンションはエレベーターなしの5階だったが、容子さんはいたって健脚で手すりをつかまずに上り下りしていた。送迎車へもすんなり乗車することができた。1日目はほぼ何事もなく過ぎた。

利用開始から1か月が経過した頃から少しずつ対応の難しさが顕著になっていった。突然眠ったようにふらふら歩きだした。うつむいて歩きながら意味の分からないことを言う。突然「もういいよ!」と語気を荒げたり、見えないものが見えているというような言動もあった。利用から3か月が経過するとさらに症状が増悪した。ほぼ直角の姿勢になって下を向いて歩くようになった。突然激怒するようになり、常時失禁するようになった。

急な変化だったので主治医とコンタクトをとる必要を感じた。レビー小体型に似た症状もあり副作用の懸念もあった。本人が受診を拒否して家族だけでは現在の状況を主治医に説明できないと考えた。センター方式のD4シートに経過を記載して、写真も添えて夫とケアマネジャーにメールで送信した。すぐに主治医から返事があった。夫によると「デイサービス開始時に追加処方したグラマリール錠による副作用の可能性があり、服用を中止する」という判断だった。同時に今後も経過報告(モニタリング)を頼みたいとの依頼があった。やはりそうか、と思った。初めて会ったとき笑顔で迎えてくれた彼女は今は険しい顔で、体は硬直し、すべてに介助が必要な状態になっていた。

グラマリールの服用を中止してからの回復ぶりは驚くべきものだった。直角に折れ曲がった体は3か月かけて元に戻っていった。デイサービスの車で迎えに行くと、階段を下りてきた容子さんの笑顔の横で、息子さんがほっとした顔で「自分で歯磨きができるようになりました」と言われた。



利用開始から1か月後、ほぼ直角の姿勢で歩く容子さん



抗精神病薬を中止して3か月が経過

★9月21日(土) 第12回「かまくら散歩」～Let'sエンジョイ!クリーン由比ガ浜!!～ 13:30～16:00 たくさん仲間と散歩と交流を楽しもう、潮の香りっぱいの砂浜を満喫しよう、由比ガ浜海岸のごみ拾い(海岸美化活動)を行います、鎌倉駅西口時計台の前の公園に集合です、参加希望者は 0467-47-6685(事務局) まで!

～次号予告～

- ☆第21回「かまくら散歩」～Let'sエンジョイ!クリーン由比ガ浜!!～の報告
- ☆認知症伝え方勉強会やっていきます!
- ☆アルツハイマーケア関係行事について
- ☆地域の動き、認知症ケアでつながる人々

★会報発行にあたり題字を当会会員で若年性認知症の古川さんのご子息(知的障害のある茂明君)にお願いしました。また、毎月イベントの写真はケアマネジャーの出口慎一氏より提供頂いています。(稲田)

9月・10月の予定

9月14日(土)	認知症相談	鎌倉市役所
9月19日(木)	運営会議	NPOセンター鎌倉
9月21日(土)	第12回かまくら散歩	御成通り～由比ヶ浜
10月12日(土)	認知症相談	鎌倉市役所
10月23日(水)	運営会議	NPOセンター鎌倉

入会ご希望の方へ

FAXで入会申込書希望と書いてお送り下さい

～資料をお送りいたします～

FAX 0467-39-5490

一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク 事務局

[問合せ先 TEL 0467-47-6685]

会員種別 年会費

1. 個人正会員 3000円
2. 個人賛助会員 2000円(一口以上)
3. 団体賛助会員 2000円(一口以上)

※申込書送付後、年会費をお振り込みください。

郵便振込口座 00240-8-140587

口座名 一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク

鎌倉市との協働事業

認知症相談事業(予約制)

専門職の有資格者が症状の背景や介護の仕方についてわかりやすく説明!

・・・かまくら認知症ネットワークが相談員を派遣しています・・・

9月14日(土)
鎌倉市役所
13:30～16:30

10月12日(土)
鎌倉市役所
13:30～16:30

お問合せ・相談のご予約は、鎌倉市役所 市民健康課まで
でんわ 0467-23-3000 内線 2678(受付 8:30～17:15)



「かまくら磨き vol.3」に認知症の人、介護職、市民、中高生が集結! 駅前の地下道を清掃しました♪

7月7日(日)、鎌倉駅地下通路で「かまくら磨き」を行いました。夏の強い日差しを避けて予定を繰り上げて午前9時半過ぎにはスタッフが集合、熱中症に気をつけ、水分補給を行いながら、みんなで協力して地下通路の壁を掃除しました。

「かまくら磨き」を実施するにあたっては、鎌倉で長く美化活動を行っている「鎌倉を美しくする会」が共催となり、清掃場所の選定や必要な手続きを行ってくれています。また近隣の学校も積極的に活動に協力してくれています。

今回参加したのは、認知症のご本人、ご家族、介護などの専門職、市民と、お隣の横浜市栄区にある山手学院のボランティアクラブの中学生高校生たち総勢20人でした。参加者は集合場所で清掃方法の説明を

聞くとそれぞれ自分の持ち場に移動、雑巾やタワシを手に掃除にかかりました。鎌倉駅地下通路の壁面は雨による泥はねなどで汚れていましたが、約1時間の清掃ですっかりきれいになりました。

「かまくら磨き」初参加の山手学院ボランティア部の生徒からは「きれいになって気持ちがいいです、次も任せてください」と大変心強い感想をいただきました。また参加した認知症のご本人からは「良かったですね、皆さんでやったからこれだけのことができたんですね」と率直な感想もいただきました。

現在「かまくら磨き」に参加してくださるサポーターを募集しています。特に資格はいりません。雑巾1枚とやる気があればどなたでも! 電話 0467-47-6685 まで。連絡おまちしています。(IN)

参加者インタビュー「かまくら磨きのコーディネートについて」鎌倉を美しくする会 高田晶子さん

スタッフ…「鎌倉を美しくする会」が共催としてどのように関わっているのかお聞かせください。
高田さん…ボランティアの清掃活動だからと言って、どこでも勝手にやってよいわけではないのですよ。きちんと持ち主に承諾をいただかないといけません。たとえば8月4日に清掃を行った大船ルミネ南側の通路付近は鎌倉市の道水路管理課へ、公衆トイレは観光課へ、公衆トイレの清掃を管轄しているのは環境保全課なんです。ややこしいでしょう。

スタッフ…へえ、建物ひとつにもいろいろな課が関わっているんですね。
高田さん…今回は事前にそれぞれの課に話をしておきましたよ。また直接には管轄ではないものの、大船のルミネとJR、湘南モノレールにもチラシを持っていきました。宣伝にもなりますからね。

スタッフ…本当にありがたいことです。今後ともよろしく願いいたします。

高田さん…こちらこそ、これからもお互いに頑張りましょう♪





認知症医学講座「認知症を支える医療」講師 都立松沢病院院長 齋藤正彦先生 鎌倉芸術館

7月19日(金)、午後7時から鎌倉芸術館集会室にて、認知症医学講座「認知症を支える医療」が行われました。講師は都立松沢病院院長の齋藤正彦先生でした。当日は医療、介護の関係者に加えて介護家族や一般の市民まで126名の参加がありました。

「観察される症状」と「体験される症状」と題した今回の講座では、認知症の当事者が体験していることにしっかり目を向け、それを支えることが認知症にかかわる支援者の役割だということを、図を使ったスライドなどでわかりやすく話してくださいました。

たとえばBPSDの背景には認知症の人の抱える存在不安があるとの説明がありました。また「患者の不安を支え」「患者の言葉に耳を傾ける」こと、「患者は活きる『主体』であって、ケアされるだけの『客体』

ではない」など、認知症のご本人の視点を尊重したとしても学びの多い研修会でした。

最後に「誠実なコミュニケーションこそ『接遇』の本質」というお話がありました。昨今、お辞儀の仕方を教える講座がちまたで行われていますが、あんなものは接遇とは無関係と言い切っておられました。真摯な心と誠実な態度が支援者に求められているのだと、つくづく思いました。

講座後のアンケートにも「とても分かりやすかった」「深く考えることができた」「とても濃い内容だった」「認知症があるか否か以前の人としての誠実さ、向き合い方の重要性を感じた」等の感想が寄せられました。今回の講座に、数人の認知症の当事者(本人)の方も参加されました。(IN)

対応の基本

- 患者は生きる「主体」であって、ケアされる「客体」ではない
- 患者は虚構の世界に安住していない
 - 患者は現実の世界とのつながりを探している
- 『受容と共感』は思い上がりとは違う
 - 私たちが想像もできない喪失感に寄り添うだけ
- 『他人の心』に立ち入ってはいけない
 - おさな子に還りし妻の幸福を他人のあなたに言われたくはない(内藤定一歌集)

齋藤正彦先生資料より



支援部会活動「かまくら磨きVol4」～大船駅ルミネ南側2階の屋外広場周辺を磨く～

8月4日(日)、朝9時から約1時間「かまくら磨き」を行いました。「かまくら磨き」は認知症の人とその支援者に社会参加の機会を提供するとともに、美化活動を通じてわがまち鎌倉を大切に思う気持ちを共有する目的ではじめたものです。4回目となる今回は、大船ルミネ2階南側の通路の柱や公衆トイレの壁などの清掃活動を、鎌倉を美しくする会と共催で行いました。

はじめに清掃方法の説明があり「KEEP 鎌倉 CLEAN」のゼッケンをつけた認知症の人、介護職や市民、鎌倉学園インターアクトクラブの中学生高校生ら20名が手に手に雑巾を持って持ち場に散って行きました。

今回の参加者の中には認知症の早期診断を受けた方もいて「人の役に立つことをしたい」という思いから

参加していると話してくれました。現在は認知症の診断技術が進んで、ひと昔前に比べればずっと早期に診断を受ける時代になりました。介護を受けるには早すぎるそうした人たちの社会参加の機会としても「かまくら磨き」は有効だと考えています。

参加者からは、「こういう機会をいただいて良かったです。これからもぜひ一緒に取り組ませていただきたい」といった言葉や、「みんなでやれたので楽しかったです」といった感想が聞かれました。

日本は高齢化がどんどん進み、高齢者も認知症の人が増えていくこれからの時代、市民も行政も、大人も子供も高齢者も、いろいろな立場の人が連携して、ともに支えあえる社会を作る必要があると、あらためて考えさせられた1日になりました。(IN)



作業の進め方を説明

埃で汚れた看板

すっきりきれいに!

どんどんピカピカに!

中高生も大活躍!



地域の動き「共生フォーラム おせっかいな町をつくろう」鎌倉生涯学習センター 鎌倉市

8月3日(土)鎌倉市生涯学習センターに於いて、「共生フォーラム in 鎌倉～おせっかいな町をつくろう～」が開催されました。この日は長岡市の高齢者総合ケアセンターこぶし園総合施設長の小山剛氏、厚生労働省・援護局課長補佐の荒川秀雄氏、松尾崇鎌倉市長、鎌倉市第一地区社協会長の小泉親昂氏、青空自主保育なかよし会の専任保育者で山崎・谷戸の会理事長の相川明子氏から取組みの報告がありました。

際立って興味を引いたのはこぶし園の小山剛氏の話で、100床の特別養護老人ホームを計画的に解体し、小規模多機能拠点へと移行させていく事例でした。小規模多機能の可能性と魅力あるお話が印象的でした。

後半のパネルディスカッションでは、主催者の菅原健介氏より、地域のつながりを再生していく必要が語られ、それぞれの現状と課題が話し合われました。松尾崇鎌倉市長からは、鎌倉市がモデル地区としている今泉台地区を例にあげて「ここで子育てをしたいと思えるくらいの魅力あるまちづくり」に取り組みたいとの抱負を語ってくれました。また、今回のフォーラムはフェイスブックで評判が回ったこともあり、客席を埋めた参加者の半数以上が30歳代の若い人たちだったことも印象に残りました。(IN)



地域の動き「一人暮らし高齢者宅の庭の芝刈りボランティア」鎌倉学園インターアクトクラブ 鎌倉市

8月12日(月)、鎌倉市今泉台で一人暮らしをしている高齢者宅を鎌倉学園インターアクトクラブの生徒4名と顧問の先生が訪ね、庭の芝刈りなどのボランティアが行われました。

ことの発端は、近所の介護施設「ケアサロンさくら」の管理者に、一人暮らしのKさん(86歳)から「庭の芝刈りができなくなってしまい困っている」と相談が寄せられたのがきっかけでした。「かまくら散歩」や「かまくら磨き」でも協力してもらっている鎌倉学園のインターアクトクラブ(ボランティアクラブ)に相談がいった、芝刈りボランティアの実現となったそうです。午前10時、鎌倉学園の生徒さんたちは、手動の芝刈

り機と鎌を使って芝や雑草を刈りとり、剪定ばさみを借りて庭木の大きかな剪定を行ないました。1時間ほどで作業を終えると、Kさん宅にお邪魔して飲み物をごちそうになりながら交流の時間も持ちました。

作業後には東京に住むKさんの娘さんから、「耳が遠い父は一人で孤独な日々を送っているの、若い方々と交流できてさぞ嬉しかったことと思います」とお礼のお手紙もいただきました。

鎌倉学園の田島先生によると今後も継続してこのような支援活動を行ってきたいとのことでした。(SA)



地域の動き「若年認知症の人の生活の充実と必要なサポート・ジョイントの報告」認知症の人と家族の会神奈川県支部 横浜市

7月7日(日)、上大岡のウィリング横浜で、認知症の人と家族の会神奈川県支部の講演会が行われました。講師はNPO法人若年認知症サポートセンター「ジョイント」の所長比留間ちづ子氏で、「若年認知症の人の生活の充実と必要なサポート」と題する講演は100名を超える聴講者で満席状態でした。

「ジョイント」は、若年認知症の人々に社会参加を促す活動を実践しています。平成13年に東京で発足した「若年認知症家族会・彩星の会」での本人交流会が前身だそうです。開所以来、若年認知症の人を対象にした就労型活動・地域貢献活動の拠点として、また地域の支援の輪をつなげ、生き生きと暮らせる共生社会をめざす拠点として着実に成果を生んできました。

「ジョイント」に参加するには、「自立通所できる人(他県もOK)」、「人とコミュニケーションが出来る人」、「就労型活動に意欲がある人」といった条件があるそうです。仕事は、公園や道路の清掃、アクセサリ(装飾品)やアルバム帳などの創作と販売、グループホーム等での調理手伝い等々。収益は参加者に「給料」として支払っていくシステムも確立しています。

若年認知症の問題は経済的困窮、子どもの養育のほか、誰に相談すればいいのかその手掛かりも難しいことです。比留間氏によると行政の支援も必要だが、最も大切なのは問題解決に意欲を持つ市民による活動の芽作りと育成だということです。鎌倉での活動の参考にしたいお話でした。(ST)

